第２章　長野県諏訪市の観光動向
――観光地利用者と観光消費弾性値――

Ⅰ　はじめに

今年度，愛知大学経営総合科学研究所の共同研究の視察先として，長野県の諏訪市，岡谷市を選定して，各地域の観光実態についてヒアリング調査を行った。本稿では，長野県の観光動向，観光地振興策，ならびに諏訪市の観光動向について，観光統計データに基づき概要を整理・分析した。

Ⅱ　長野県の観光

1　概要

長野県は，周囲を日本アルプスの3,000メートル級の山々に囲まれ，自然的観光資源が豊富であり，中部地方の観光の中心地である。高峻な山脈で隣接県に接し，それらの山脈の多くは国立公園や国定公園になっている。国立公園は日本の山岳観光を代表する中部山岳国立公園，南アルプス，上信越高原，秩父多摩甲斐などがあり，国定公園では八ヶ岳中信高原，妙義荒船佐久，天竜奥三河が隣接県にまたがって分布する。また，中央アルプスや御嶽山などは県立自然公園に含まれている。多くの高原や湖沼，渓流や温泉が点在し，四季折々の変化は，観光客を魅了し，長野県の最大の観光資源となっている。

長野県の中央部には日本列島を分断するフォッサ・マグナが走り，日本における東西文化圏の接点に当たる。山河が作る複雑な地形は，地域を細分化し，多彩で特色のある地域文化を育んできた。この複雑な地形を反映し，古くからの祭りや民俗芸能が，伝統的な形で，各地に数多く伝承されてきた。善光寺，諏訪神社などの寺社や松本城などの歴史的建造物，木曽十一宿の妻籠，馬籠の旧宿場町な

ど伝統的な町並みが各地で大切に保存されている。山地や高原が多く，首都圏に隣接して交通の便もよく，夏は軽井沢に代表される避暑，冬や志賀高原に代表されるスキーに多くの県外客を集めている。

2　観光動向

昭和40年からの長野県内の観光地利用者数の推移をみると（図1参照），昭和48年の善光寺御開帳までの9年間で急激に増加し，この間の平均伸び率は10.7％で高い伸び率を示した。この傾向は宿泊客数についても同様で（図2参照），昭和48年までの平均伸び率は12.8％に上っている。その後，観光地利用者数，宿泊客数とも漸増を繰り返し，平成3年にピークを迎え，延観光地利用者数1億7千万人，延宿泊客数4777万人を記録する。しかし，それ以降，善光寺御開帳や諏訪御柱祭といった集客力の高いイベントが開催された年を除けば，基調として減少傾向をたどっている。

観光消費額の推移についてみると（図2参照），昭和40年の観光地利用者の消費総額は286.5億円であったが，その後急激に増加し，平成3年には4,293億円，平成10年の長野オリンピック開催，諏訪大社御柱祭の年には，過去最高の4,565億円を記録した。しかし，これは観光地利用者数の傾向と同様に，その後，大きな落ち込みを示した。この結果，観光関連事業者の業況は悪化し，スキー場運営会社等の経営破綻が相次ぎ，観光の不振が長野県経済にマイナスの影響を及ぼしている。このような観光地利用者数，観光消費額の減少傾向の原因として，冬季の観光地利用者数（特にスキー場利用者数）の落ち込みが，その大きな要因と考えられている。図3は長野県内のスキー場利用者数の推移を示した。推移の傾向としては，観光地利用者数や宿泊客数と同様であるが，平成4年のピーク時（2,119万人）以降，急激な落ち込みを示している。年平均でみると6％の減少率で，これが観光地利用者数や観光消費額の落ち込みに大きく影響している。図4は延宿泊客数と延県内スキー場利用者数の相関散布図をとったものである。両者の間には非常に強い相関関係（相関係数：0.88）がみられる。スキー場利用者数がこのまま減少を続けるならば，宿泊客もかなりの減少が予想され，長野県内の宿泊業者に大きなダメージを与えることになるであろう。

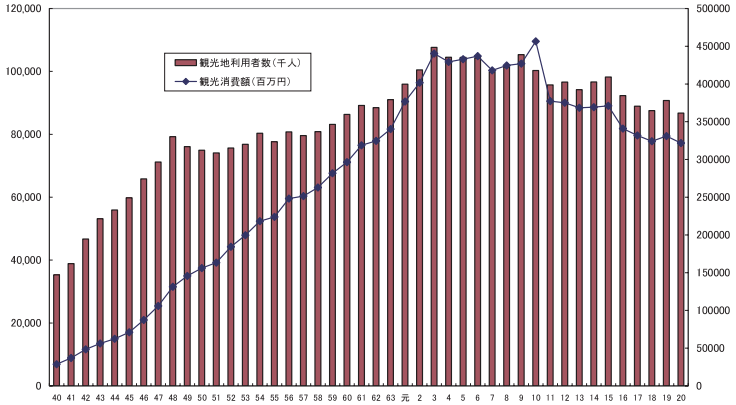

図１　長野県の観光地利用者数と観光消費額の推移

出所：長野県観光企画課資料より作成

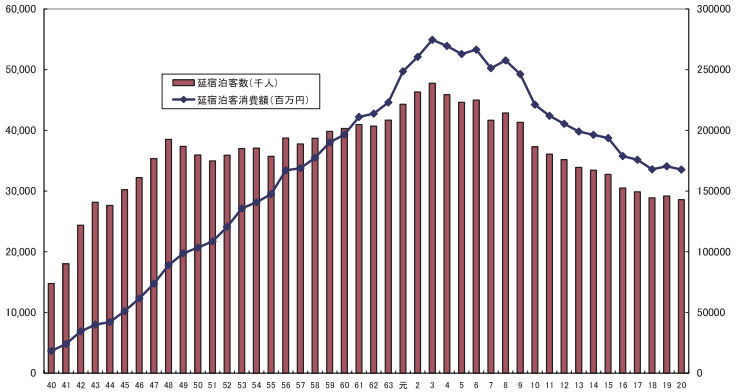

図２　長野県内の延宿泊客数と観光消費額の推移

出所：長野県観光企画課資料より作成

平成 19 年は，NHK 大河ドラマ「風林火山」の影響で諏訪・長野地域への観光客が増え，長野県内の観光地利用者数も対前年比 3.6％増の延べ 9,073 万人に上ったが，平成 20 年は，観光地利用者数は 8,676 万人（対前年比 95.6％），観光消費額は 3,217 億年（対前年比 97.2％）に減少した。前年の「風林火山」効果の反動のほか，ガソリン価格の高騰や国内景気の後退の影響もあり，観光地利用者数，

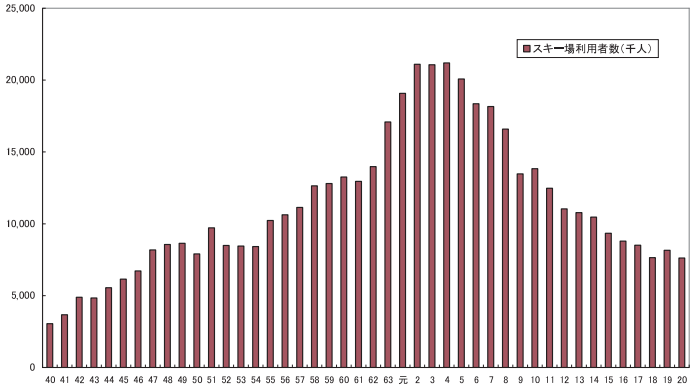

図３　長野県内のスキー場利用者数の推移

出所：長野県観光企画課資料より作成

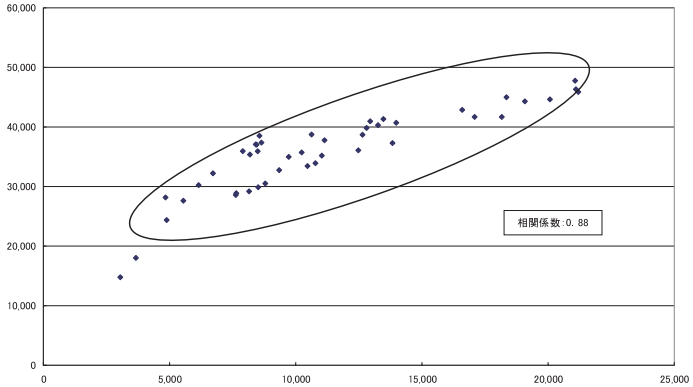

図４　宿泊客数とスキー場利用者数の相関散布図

観光消費額とも減少したと考えられる。

一人当たり観光消費額の推移をみると（表１参照），昭和 50 年代の 2,000 円台から徐々に増加し，平成に入ると 4,000 円台になり，平成 10 年の長野オリンピック開催年には，過去最高の 4,553 円を記録した。しかし，その後，景気の低迷などにより消費額は 3,000 円台に減少し，平成 20 年は利用者平均 3,709 円（対前年 60 円増），日帰り客 2,648 円（対前年 38 円増），延宿泊客 5,868 円（対前年 30

表１　長野県の観光客一人当たりの消費額（円）

	利用者平均		日帰り客		延宿泊客			利用者平均		日帰り客		延宿泊客	
	消費額	対前年増減	消費額	対前年増減	消費額	対前年増減		消費額	対前年増減	消費額	対前年増減	消費額	対前年増減
50 年	2,082	166	1,348	132	2,879	238	4 年	4,109	4,109	2,725	2,725	5,877	5,877
51 年	2,204	121	1,399	51	3,104	225	5 年	4,142	34	2,840	115	5,889	13
52 年	2,436	233	1,605	206	3,356	252	6 年	4,189	46	2,872	32	5,926	37
53 年	2,600	163	1,607	2	3,666	310	7 年	4,185	− 4	2,865	− 7	6,029	103
54 年	2,717	118	1,791	184	3,798	133	8 年	4,187	2	2,852	− 13	6,011	− 19
55 年	2,885	168	1,826	35	4,127	329	9 年	4,055	− 132	2,852	0	5,959	− 52
56 年	3,073	188	1,928	102	4,314	187	10 年	4,553	498	2,777	− 75	5,929	− 30
57 年	3,159	86	1,974	46	4,471	156	11 年	3,942	− 611	2,771	− 6	5,876	− 53
58 年	3,251	92	2,023	49	4,589	118	12 年	3,883	− 59	2,763	− 8	5,839	− 36
59 年	3,389	138	2,117	94	4,772	184	13 年	3,912	29	2,811	48	5,869	30
60 年	3,434	44	2,171	54	4,875	103	14 年	3,822	− 91	2,737	− 74	5,870	1
61 年	3,574	140	2,231	60	5,155	280	15 年	3,778	− 44	2,710	− 27	5,913	42
62 年	3,670	97	2,321	90	5,254	99	16 年	3,694	− 84	2,624	− 86	5,860	− 53
63 年	3,739	69	2,378	57	5,350	97	17 年	3,730	36	2,640	16	5,885	25
平成元年	3,928	189	2,484	106	5,611	260	18 年	3,702	− 29	2,662	22	5,814	− 71
2 年	3,998	70	2,607	123	5,624	13	19 年	3,649	− 53	2,610	− 52	5,838	24
3 年	4,090	92	2,768	161	5,748	125	20 年	3,709	60	2,648	38	5,868	30

出所：長野県観光企画課「平成 20 年観光地利用者統計調査結果」

円増）となっている。

3　長野県の観光地振興策

長野県は，上記でみたように，延観光地利用者数や延宿泊客数が平成に入り，基調として減少傾向をたどってきた。長野県では，これを打開すべく，平成 13 年度を初年度とし，17 年度を目標達成時期として，『長野県観光ビジョン―長野県観光振興基本計画―』を策定した。その展開方策として，Ⓐ競争力のあるホスピタリティ産業の育成，Ⓑ情報受発信の充実，Ⓒ国際観光の推進，Ⓓ広域観光の推進，Ⓔ豊かな環境との共生，Ⓕ受け入れ体制の基盤整備，Ⓖうるおいのある地域づくり，を掲げ取り組んできた。また，平成 17 年 8 月には，このビジョンの理念を踏襲しつつ，「市町村等の目標値の集約を県の目標値として定め，市町村や観光地等の主体的な取り組みを，県が部局横断的に誘客活動等を支援するため

の行動指針」として『信州わくわく・ゆったり観光アクションプラン』（アクションプラン）を策定。「市町村や観光地等との連携強化」と「観光ブランド日本一“信州”の構築」を主軸として観光振興への取り組み強化を図ってきた。それに続き平成20年には『「観光立県長野」再興計画』を策定した。同計画では，①ニーズ変化への対応，②顧客満足度の向上，③地域特性を生かした観光魅力づくり，④スキー場や温泉地の活性化，⑤周遊の広域化，日帰り観光の増加への対応，⑥国際観光市場の開拓，⑦効果的な誘客宣伝を「長野県観光の課題」として挙げるとともに，長野県観光の将来像の実現に向けての基本姿勢として，(1)観光旅行者の視点に立って，顧客満足度を向上させる，(2)住んでいる地域への愛着と誇りを大切にする，(3)豊かな自然，元気で長生きなどの長野県の地域特性を磨き，継承していく，(4)ユニバーサルデザイン，バリアフリー化を促進する，を掲げている。また，達成目標の設定として，2012年までにⒶ県内の観光サービスに対する満足度を50％以上，Ⓑ観光消費額を4,000億円以上，Ⓒ観光地利用者数を1億人以上，Ⓓ外国人宿泊者数を37万人以上としている。

こうした状況下，最近の長野県内の観光地振興策としては，広域観光ルートの開発，滞在型観光プログラムの開発などが提案されている。既存の観光資源（自然環境，歴史的史跡，文化施設など）を見直し，新たな魅力を再発見し，新しい観光資源として活用するとともに，さまざまな観光体験を有機的に融合させ魅力ある滞在型観光地を目指している。これらの方策は，従来のスキー観光依存体質からの脱却に道筋を付けるものである。

近年，観光振興の成功事例として小布施町が有名であるが，そこでは，1990年に制定した「うるおいのある美しいまちづくり条例」を核として，店舗の外観を和風デザインに統一し，趣きのある街並みを醸成するとともに，「小布施ッション」と呼ばれるセミナーも含めてイベントの開催に工夫を凝らし，街のハードとソフトをうまくコーディネートすることによって，誘客力を着実に高めている。

Ⅲ　諏訪市の観光

1　概要

諏訪市は，長野県のほぼ中央に位置し，面積 109.91㎢，人口 52,313 人（平成 20 年）の湖畔都市である。上諏訪ともよばれ，湖岸の東から南にかけて広がる温泉と諏訪大社のある城下町で，戦国時代に武田信玄が城下町としての基礎を築いたといわれている。江戸時代には甲州街道の宿場町でもあり，城下町当時から湖岸に温泉が開発され，交通便利な温泉地としても有名で，数多くの入浴客を集めている。

明治期におこった製糸業は盆地一帯を日本一の製糸工業地帯に変貌させたが，第 2 次世界大戦後は従来からの醸造業のほかカメラや時計，OA 機器などの部品を製造する精密機械工業に転換し，「東洋のスイス」と称されている。寒冷な気候を利用した寒天，凍豆腐などの生産ほか，味噌や清酒の醸造などの伝統産業も現在につたわる。諏訪湖，上諏訪温泉，諏訪大社の上社，霧ヶ峰高原などを抱える観光都市であり，上諏訪温泉・諏訪湖への延利用者数は 420 万人（平成 20 年）を数え，長野県内では軽井沢，善光寺に次ぐ，主要な観光地である。

2　諏訪市の観光動向

諏訪市への観光客数は，昭和 50 年以降 57 年の落ち込みを除けば毎年漸増し，平成 4 年の諏訪大社御柱祭に 738 万人でピークを迎える。その後，平成 13 年まで 10 年間は 600 万人台で推移し，平成 14 年には霧ヶ峰有料道路の無料化の影響で 747 万人に急増し，平成 19 年には NHK 大河ドラマ「風林火山」の効果で 805 万人を記録し，過去最高となった（図 5 参照）。諏訪市の日帰客と宿泊客の入り込み数の推移をみると（表 2 参照），昭和 50 年には 15％台あった宿泊客比率は，平成 14 年以降，一桁台にまで落ち込んでいる。これは霧ヶ峰有料道路の無料化で，高速道路を利用した日帰り観光客が増加した影響と考えられる。観光消費額についてみると，観光客数の増加と共に着実に増加し，宿泊客比率が落ち込む平成 14 年には対前年比 17.7％増の 229 億円となり，プラスの効果をもたらしている。

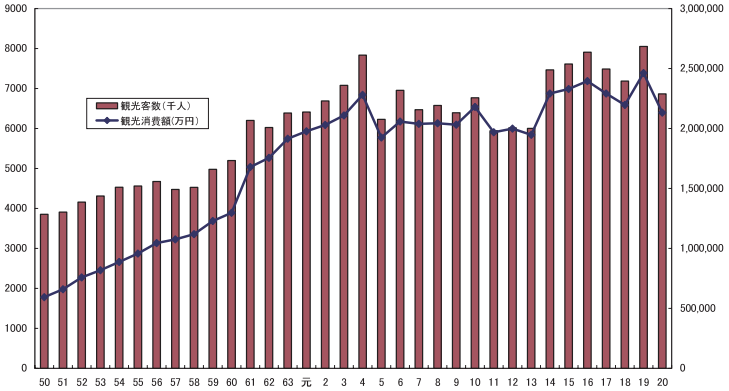

図５　諏訪市観光客数と観光消費額の推移

出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」より作成

表２　諏訪市の日帰り・宿泊別の観光客の推移

	日帰客（人）	宿泊客（人）	総計（人）	観光消費額（万円）	宿泊客比率（%）		日帰客（人）	宿泊客（人）	総計（人）	観光消費額（万円）	宿泊客比率（%）
昭和 50 年	3,273,114	581,009	3,854,123	593,318	15.07	4 年	7,102,360	731,771	7,834,131	2,280,385	9.34
51 年	3,313,754	594,299	3,908,053	659,661	15.21	5 年	5,519,634	708,830	6,228,464	1,924,657	11.38
52 年	3,550,368	608,004	4,158,372	758,604	14.62	6 年	6,266,173	688,767	6,954,940	2,058,328	9.90
53 年	3,710,016	600,438	4,310,454	818,270	13.93	7 年	6,056,849	711,926	6,468,805	2,038,932	11.01
54 年	3,918,895	611,229	4,530,124	887,128	13.49	8 年	5,815,695	761,546	6,577,241	2,043,913	11.58
55 年	3,948,100	612,667	4,560,767	957,158	13.43	9 年	5,625,705	766,764	6,392,469	2,031,218	11.99
56 年	4,043,080	631,466	4,674,546	1,044,653	13.51	10 年	6,053,364	714,945	6,768,309	2,180,363	10.56
57 年	3,850,092	625,112	4,475,204	1,075,230	13.97	11 年	5,256,335	685,723	5,942,058	1,968,306	11.54
58 年	3,899,244	628,598	4,527,842	1,118,889	13.88	12 年	5,315,300	700,904	6,016,204	1,998,596	11.65
59 年	4,372,274	637,431	4,979,270	1,228,829	12.80	13 年	5,356,995	645,910	6,002,905	1,946,654	10.76
60 年	4,574,867	623,205	5,198,072	1,297,232	11.99	14 年	6,808,647	658,407	7,467,054	2,292,049	8.82
61 年	5,553,366	647,905	6,201,271	1,679,108	10.45	15 年	6,947,247	664,471	7,611,718	2,329,359	8.73
62 年	5,347,664	677,254	6,024,918	1,755,157	11.24	16 年	7,243,442	663,849	7,907,291	2,395,460	8.40
63 年	5,639,609	748,078	6,387,687	1,915,012	11.71	17 年	6,832,824	654,094	7,486,918	2,292,138	8.74
平成元年	5,686,021	726,693	6,412,714	1,977,093	11.33	18 年	6,563,814	622,045	7,185,859	2,196,058	8.66
2 年	5,972,237	716,386	6,688,623	2,029,714	10.71	19 年	7,352,459	698,747	8,051,206	2,462,795	8.68
3 年	6,360,574	718,062	7,078,636	2,109,243	10.14	20 年	6,235,671	629,254	6,864,925	2,131,793	9.17

出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」

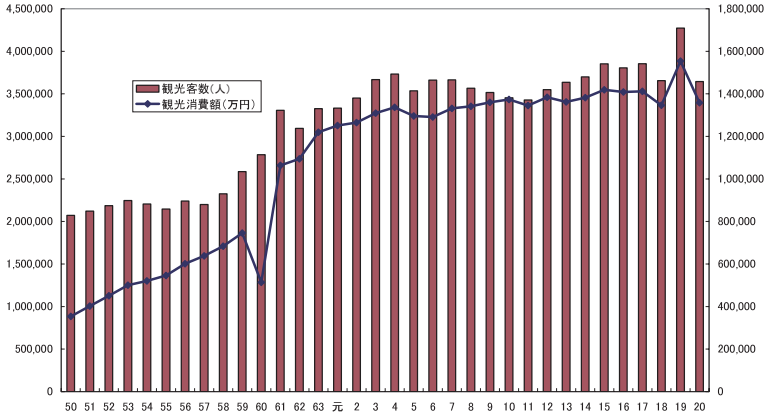

図６　上諏訪温泉・諏訪湖の観光客数・観光消費額の推移

出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」より作成

表３　上諏訪温泉・諏訪湖の日帰り・宿泊別の観光客の推移

	日帰客（人）	宿泊客（人）	総計（人）	観光消費額（万円）	宿泊客比率（%）		日帰客（人）	宿泊客（人）	総計（人）	観光消費額（万円）	宿泊客比率（%）
昭和 50 年	1,631,561	440,757	2,072,318	353,881	21.27	4 年	3,111,094	622,065	3,733,159	1,336,359	16.66
51 年	1,650,760	471,211	2,121,971	402,320	22.21	5 年	2,911,092	623,668	3,534,760	1,295,909	17.64
52 年	1,706,196	479,565	2,185,761	450,745	21.94	6 年	3,074,302	587,494	3,661,796	1,290,807	16.04
53 年	1,770,686	475,637	2,246,323	500,317	21.17	7 年	3,053,959	610,448	3,664,407	1,331,606	16.66
54 年	1,718,710	486,822	2,205,532	520,604	22.07	8 年	2,897,390	668,165	3,565,555	1,341,654	18.74
55 年	1,656,908	489,456	2,146,364	546,236	22.80	9 年	2,837,933	677,576	3,515,509	1,360,204	19.27
56 年	1,730,669	508,879	2,239,548	601,108	22.72	10 年	2,818,204	634,597	3,452,801	1,373,402	18.38
57 年	1,684,881	514,122	2,199,003	637,968	23.38	11 年	2,816,639	610,528	3,427,167	1,345,008	17.81
58 年	1,803,568	521,474	2,325,042	683,430	22.43	12 年	2,926,188	622,921	3,549,109	1,384,095	17.55
59 年	2,064,627	520,992	2,585,619	745,485	20.15	13 年	3,056,802	578,695	3,635,497	1,361,962	15.92
60 年	2,271,073	514,057	2,785,130	514,057	18.46	14 年	3,114,735	584,848	3,699,583	1,382,162	15.81
61 年	2,755,824	549,805	3,305,629	1,063,461	16.63	15 年	3,265,899	587,074	3,852,973	1,418,770	15.24
62 年	2,524,624	568,995	3,093,619	1,094,404	18.39	16 年	3,217,503	587,594	3,805,097	1,408,485	15.44
63 年	2,683,206	642,205	3,325,411	1,219,650	19.31	17 年	3,273,884	579,442	3,853,326	1,411,676	15.04
平成元年	2,710,887	621,180	3,332,067	1,250,947	18.64	18 年	3,099,119	556,748	3,655,867	1,345,914	15.23
2 年	2,841,487	608,477	3,449,964	1,264,620	17.64	19 年	3,642,571	630,261	4,272,832	1,553,834	14.75
3 年	3,059,551	607,103	3,666,654	1,309,130	16.56	20 年	3,072,796	572,504	3,645,300	1,358,346	15.71

出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」

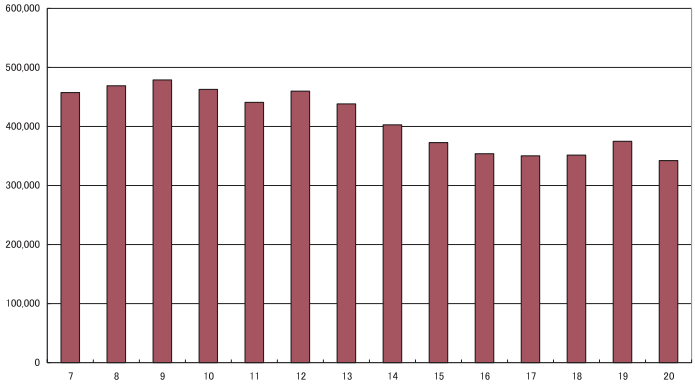

図７　上諏訪温泉宿泊客数の推移（人）
出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」より作成

3　観光地別の観光客入り込み動向

(1)　上諏訪温泉・諏訪湖

昭和 50 年の延観光客総数は 207 万人，その内の 44 万人が宿泊客（宿泊比率 21.3％）で，観光消費額は 35 億 3,881 万円，観光客一人当たりに換算すると 1,708 円であった（表 3 参照）。昭和 60 年に入ると観光客数は飛躍的に増加し，昭和 61 年には諏訪大社御柱祭や蓼科有料道路の無料化などにより，観光客数は対前年比 18.7％の増加，観光消費額は 100 億円（対前年比 107％増）を突破した。平成に入っても観光客数は 300 万人台を維持し，観光消費額も 130 億円台で推移している。平成 19 年はドラマ効果で，観光客数は 427 万人，観光消費額は 155 億円と過去最高を記録している。しかし，宿泊客数をみると，平成 9 年の 68 万人をピークに減少傾向にある。これは上諏訪温泉の宿泊客についても同様な傾向にあり，40 万人台から 30 万人台に落ち込みが続いている（図 7 参照）。

(2)　霧ヶ峰

霧ヶ峰への主要観光地である霧ヶ峰高原，霧ヶ峰スキー場への入り込み客は，その大半が日帰り観光客である（表 4 参照）。昭和 50 年以降，観光客数は増減を繰り返しながらも増加基調にあり，昭和 50 年の 175 万人から平成 3 年には 254 万人にまで増加したが，その後，観光客数は急激に落ち込み，平成 13 年には

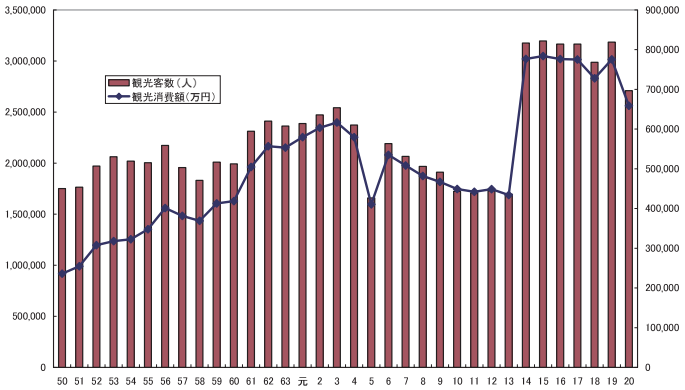

図８　霧ヶ峰の観光客数・観光消費額の推移

出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」より作成

表４　霧ヶ峰の日帰り・宿泊別の観光客の推移

	日帰客（人）	宿泊客（人）	総計（人）	観光消費額（万円）	宿泊客比率（%）		日帰客（人）	宿泊客（人）	総計（人）	観光消費額（万円）	宿泊客比率（%）
昭和 50 年	1,611,279	140,098	1,751,377	235,957	8.00	4 年	2,263,797	109,706	2,373,503	579,529	4.62
51 年	1,641,664	123,088	1,764,752	254,705	6.97	5 年	1,574,891	85,162	1,660,053	410,648	5.13
52 年	1,843,172	128,439	1,971,611	307,859	6.51	6 年	2,090,239	101,273	2,191,512	535,079	4.62
53 年	1,938,330	124,801	2,063,131	317,953	6.05	7 年	1,964,903	101,478	2,066,381	508,304	4.91
54 年	1,895,507	124,407	2,019,914	322,529	6.16	8 年	1,874,762	93,381	1,968,143	482,073	4.74
55 年	1,880,344	123,211	2,003,555	347,776	6.15	9 年	1,821,715	89,188	1,910,903	467,176	4.67
56 年	2,051,364	122,587	2,173,951	401,275	5.64	10 年	1,644,219	80,348	1,724,567	449,000	4.66
57 年	1,845,587	110,990	1,956,577	381,584	5.67	11 年	1,634,575	75,195	1,709,770	442,144	4.40
58 年	1,724,634	107,124	1,831,758	368,894	5.85	12 年	1,652,966	77,983	1,730,949	448,869	4.51
59 年	1,892,825	116,439	2,009,264	412,924	5.80	13 年	1,630,227	67,215	1,697,442	433,951	3.96
60 年	1,883,702	109,148	1,992,850	418,629	5.48	14 年	3,101,987	73,559	3,175,546	776,704	2.32
61 年	2,213,931	98,100	2,312,031	504,703	4.24	15 年	3,118,579	77,397	3,195,976	783,966	2.42
62 年	2,303,663	108,259	2,411,922	556,878	4.49	16 年	3,089,698	76,255	3,165,953	776,323	2.41
63 年	2,257,490	105,873	2,363,363	553,482	4.48	17 年	3,090,800	74,652	3,165,452	775,129	2.36
平成元年	2,281,900	105,513	2,387,413	579,873	4.42	18 年	2,921,694	65,297	2,986,991	727,966	2.19
2 年	2,364,565	107,909	2,472,474	603,428	4.36	19 年	3,115,965	68,486	3,184,451	775,329	2.15
3 年	2,431,975	110,959	2,542,934	616,744	4.36	20 年	2,653,121	56,750	2,709,871	658,753	2.09

出所：諏訪市観光課「平成 20 年観光動態要覧」

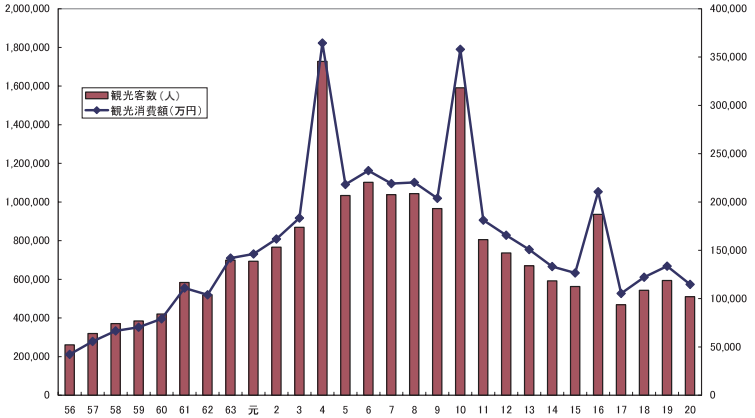

図９　諏訪大社の観光客数・観光消費額の推移
出所：諏訪市観光課「平成20年観光動態要覧」より作成

170万人弱にまで減少した。しかし，平成14年には，霧ヶ峰有料道路（ビーナスライン）の無料化により，観光客数は318万人と大幅に増加し，その内，日帰り観光客は150万人の増加であった。高速道路の無料化は，宿泊客比率を減少させているが，その反面，日帰り観光客の増加により観光消費額は40億円台から70億円台に増加している。平成19年はNHK大河ドラマ「風林火山」や“信州キャンペーン”，JTBの“日本の旬”などの各種キャンペーンで観光客数，観光消費額に好影響を与えたが，平成20年は，その反動に加え，ガソリン価格の高騰や景気の底冷えにより，延観光客数は271万人にまで減少し，観光消費額も70億円を下回った。

(3)　諏訪大社

諏訪大社への観光客は，全て日帰り観光客である。諏訪大社の6年ごとに行われる御柱祭の年は観光客数，観光消費額とも大幅に増加する。平成4年には，延観光客数173万人，観光消費額36億円と大幅に増加したが，平成10年には，延観光客数159万人，観光消費額36億円，平成16年には，延観光客数94万人，観光消費額21億円と6年ごとの増加傾向にも陰りがみられる（図9参照）。

Ⅳ　観光消費弾性値の推計

1　推計式

観光地利用者（観光客）数の変化が観光消費額に対してどの程度の影響を与えるかを計測するために，以下の対数線形式を用いる。

$\ln Y = \alpha + \beta \ln X$　（Y：観光消費額，X：観光地利用者数，α：係数，β：弾性値）

この式を単回帰分析して，推計されたβが弾性値となり，β値が大きいほど観光客数の変化が観光消費額に大きな影響を与えることになる。

2　推計結果

昭和 50 年から平成 20 年まで期間の長野県（観光地利用者数・観光消費額，日帰客数・日帰客消費額，宿泊客数・宿泊客消費額），諏訪市（観光客数・観光消費額），上諏訪温泉・諏訪湖（観光客数・観光消費額），霧ヶ峰（観光客数・観光消費額），諏訪大社（観光客数・観光消費額）の観光消費弾性値を計測した（表 5 参照）。弾性値については，全て統計的に有意である。各弾性値をみると，全て 1 より大きく弾力的である。長野県観光地利用者数の観光消費弾性値が最も大きく（2.55），長野県日帰客数（2.15），上諏訪温泉･諏訪湖（1.92）と続く。逆に，長野県宿泊者数（1.08），諏訪大社（1.12），霧ヶ峰（1.29）が比較的小さい。この結果から判断する限り，長野県の観光地利用者数，特に日帰観光客数の落ち込みは観光消費額を大幅に減少させる。その効果は，宿泊客の 2 倍以上である。長野県の観光消費額を拡大させようとする場合，宿泊客を増やすよりも日帰客を増やすことのほうが効果は大きい。諏訪市についてみると，諏訪市内，上諏訪温泉･諏訪湖への観光客数の落ち込みは観光消費額に大きな影響を与える。特に，上諏訪温泉の場合，宿泊者の比率が高いため，その落ち込みは観光消費額を大幅に減らすことが考えられる。

表５　観光地別の観光消費弾性値

		α	β	R^2
長野県	利用者総数	－7.14 （－11.12）	2.55 （－19.69）	0.92
	日帰客	－5.06 （－13.39）	2.15 （26.84）	0.95
	宿泊客	0.33 （0.27）	1.08 （－4.16）	0.33
諏訪市		－6.24 （－11.11）	1.84 （21.15）	0.94
上諏訪温泉・諏訪湖		－6.46 （－10.02）	1.92 （19.31）	0.92
霧ヶ峰		－2.56 （－2.68）	1.29 （8.64）	0.69
諏訪大社		－1.38 （－7.48）	1.12 （35.51）	0.98

注：α 係数値，β 弾性値，上段：推計値，下段：t 値

Ⅴ　おわりに

長野県の観光動向を観光統計資料に見る限り，長野県内の宿泊客数の落ち込みは予想以上に大きい。その第一の要因はスキー場利用者数の大幅な落ち込みである。現在，長野県ではスキー観光依存体質から脱却して，滞在型観光による振興策を進めている。飯田市を始め，長野県内の多くの自治体で農村滞在型の体験型観光が実施されている。これらの事業が今後どのように展開するかは定かではないが，研究対象として今後とも見守っていきたい。

最後になりますが，神頭広好教授には本論の掲載の機会をお与え頂き，ここに記して厚く感謝致します。

参考・引用文献

諏訪市企画調整課（2008）『諏訪市勢要覧』
諏訪市観光課（2009）「平成 20 年観光動態要覧」
長野県（2001）『長野県観光ビジョン―長野県観光振興基本計画―』
長野県（2008）『「観光立県長野」再興計画［2008～2012］』
長野県観光企画課（2008）「平成 20 年観光地利用者統計調査結果」
（社）日本観光協会『全国観光動向』各年度版
日本銀行松本支店（2006）資料「長野県の観光振興に向けて～観光産業の停滞打開のための視点～」

参考ホームページ

諏訪市公式ホームページ http://www.city.suwa.lg.jp/www/normal_top.jsp
長野県観光企画課ウェブサイト http://www.pref.nagano.jp/kanko/kankoki/toukei/